

知っておきたい 診療技術

骨に注意を払おう 骨密度検査と骨粗鬆症

【骨密度検査とは】

骨を構成しているカルシウムなどのミネラル類の量を測定する検査です。特に女性では閉経後は女性ホルモンの分泌が少なくなり、骨のミネラル成分を保持しにくくなります。これらが不足してくると骨がもろくなり、骨折しやすくなります。このため、骨密度検査は骨粗鬆症や代謝性骨疾患の診断に役立ちます。骨密度を数値化することで骨量の減少を早期に発見し、骨粗鬆症の適切な予防や治療を行うことが可能になります。

【当院の装置】

当院では骨密度測定にHOLOGIC社製の Horizon DXA systemを採用しています。骨密度を検査する方法は、超音波を使用する

方法やX線を用いた方法などいくつかありますが、当院ではレントゲン撮影と同じX線を用いたDXA法（デキサ法）にて骨密度検査を行っています。DXA法は他の方法と比べ測定精度が高く、骨粗鬆症を診断するのに必要な検査とされています。測定に用いるX線はきわめて少ない量ですので、余分な被曝の心配をせずに検査を受けていただくことが可能です。検査の間隔は最短で4ヶ月ごとで、通常半年～1年に1回程度です。



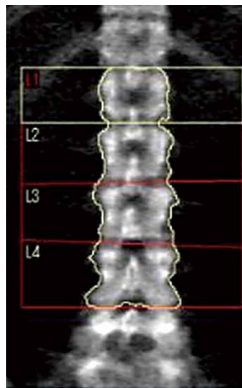
HOLOGIC社製 Horizon DXA system
(写真提供：東洋メディック株式会社)

【骨量を測定する部位】

腰椎

腰椎を含む脊椎は骨量が低下すると、明らかな転倒などがな

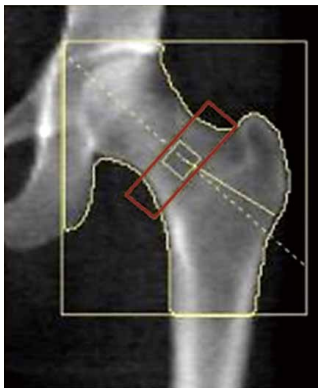
くても徐々に圧迫骨折がおこりやすくなります。腰椎は他の部位と比べて骨量の変化が現れやすい海綿骨が多く、腰椎を検査することによって骨粗鬆症の兆候があるか知ることができます。このため、腰椎のDXA法による骨密度測定は骨粗鬆症の診断基準となっています。



腰椎(正面)

大腿骨頸部

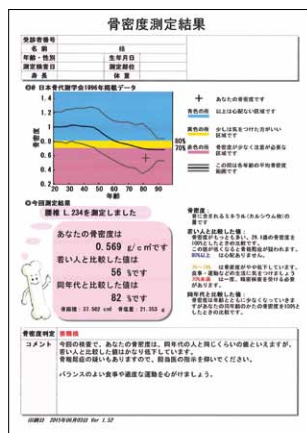
高齢者の転倒で骨折しやすい部位です。そのため骨量低下の指標として用いられます。骨折を生じると歩行などの生活動作



大腿骨頸部(左)

【検査結果について】

左図のような結果をお渡しします。測定値は、同年代の平均値との比較および最も骨量が多いとされる若年成人平均値（おおむね30歳代）との比較で示されます。また、過去に検査した方は骨密度の変化の比較も可能です。骨粗鬆症治療を受けられている方はその効果も見ることができます。



骨密度測定結果

に制限を生じやすく注意が必要です。両側あるいはいずれか片側の撮影を行います。

骨密度検査によりご自身の骨の状態を把握していただき、骨折などから身を守るために生活習慣や食事に注意を払うことが大切です。

(脊椎・整形外科部長 北原 淳)